

NOKAIDAI NOW

生産電子情報システム技術科 卒業生 辰ノ 嘉郎さん 4年間を振り返る

人より努力しようという気持ちをもてたことが良かったと思います。

高校生の時パソコン関係のことを学びたい、将来はプログラミングの仕事がしたいと漠然と考えていたのですが、高校の担任の先生に薦められて近畿職業能力開発大学校へ進学を決めました。

入学した当初は楽しかったのですが、勉強面でみんなについていけないのではないかと不安を感じていました。そんな時、その不安を払拭するために、人より努力しようという気持ちをもてたことが良かったと思います。この思いが、平成28年度第11回若年者ものづくり競技大会への挑戦につながっていきました。放課後、学校に残って大会に向けてのトレーニングを積んだわけですが、他の学生より多くの時間勉強することになり、多くの事を吸収することができました。大会では、努力が実を結び、電子回路組立て部門で銀賞を獲得することができました。



若年者ものづくり競技大会に参加する辰ノさん
辰ノさんの経験は、勉強会を通じて平成30年同大会同種目に出場した電子情報技術科松下拓磨さんに伝えられ、見事銅賞獲得となった。

単位を落とすかもしれないという危機から、自分のやるべきことを行い、周りを巻き込んで行動し、きちんと成果を出せるようになりたいと思うようになりました。

入学当初から応用課程への進学を考えていたわけではありませんが、勉強する中でより技能・技術を高めたい、より多くのことを学びたいという意欲が強くなっていきました。しかし、応用課程での勉強は



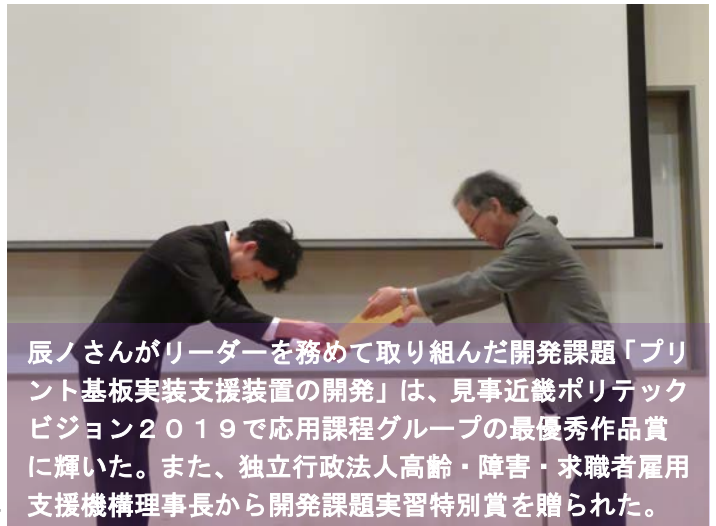
思っていたものとは少し異なりました。専門課程の時のように先生から一方的に何かを学ぶのではなく、自ら考え、行動することも求められます。

それまで順調に成績を積み重ねてきたのですが、そのような環境の変化に対応できず、実は単位を落とすことになるかもしれないという危機を経験しました。これは、応用課

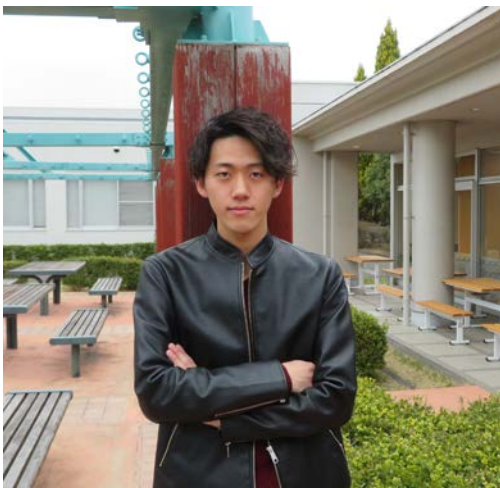
程1年生で受講する標準課題と言われる授業で、課題を与えられグループで制作物に取り組みます。私はグループリーダーを担当していたのですが、自分がやるべきことがうまく進まず、そんな状態で周りのみんなをなかなかまとめられませんでした。課題を期日までに完成させられるかどうか目途がつかなくて、本当にうまくいきませんでしたね。最後にグループでの成果を発表し、質問を受けるのですが、準備不足のため十分に説明できず、質問にも答えきれなくて本当に恥ずかしい思いをしました。これではだめだと実感し、自分のやるべきことを行い、周りを巻き込んで行動し、きちんと成果を出せるようになりたいと思うようになりました。

コミュニケーションを密にとったことで課題制作にうまく取り組むことができました。

2年生になって、開発課題でもリーダーを担当しました。開発課題では、同じ科だけではなく、電気と機械のそれぞれ別の科の学生も一緒になって課題製作に取り組むわけですが、前年の標準課題での経験を踏まえ特にコミュニケーションには気を使いました。機械が担当する部分については、こちらから一方的に製作して欲しいものを要求するのではなく、機械の学生としてはどのようなやり方が良いと考えるのかといった相手の立場を尊重して意見を聞くということをしました。また、同じ科の学生が担当する部分について日程どおりに進まないときは、とにかくコミュニケーションを重ね、何度もお互いカバーしながら取り組みました。議事録にない電子情報だけの打ち合わせの回数は、50回を超えていたと思います。その都度作業が止まるので効率が悪くも見えますが、コミュニケーションを密にとったことで課題制作にうまく取り組むことができました。



いろんなことに挑戦してよかったと思います。それによって得られたものは多かったです。



この4年間、若年者ものづくり競技大会の挑戦から始まり、応用課程での標準課題及び開発課題のグループリーダーを経験しました。うまくいかないこともありましたが、結果としていろんなことに挑戦してよかったと思います。それによって得られたものは多かったです。これから入学する学生や在校生にもチャンスがあればぜひ挑戦してほしいですね。